

学校教育目標「笑顔いっぱい ともに輝く小山台」



小山台

学校だより
11月号
令和4年10月31日
横浜市立小山台小学校



非認知能力

副校長 佐々木 希

運動会前日の10月21日 5・6時間目、4～6年生は運動会の準備です。校庭を飾る旗や入退場門の取り付け、放送アナウンスや用具の出し入れ、応援団の練習等々…。準備の終わりの時間が来た時、応援団は円陣を組んで「がんばるぞ！オー！」と叫んでいました。団長の6年生を中心に気合いの入った応援団を見て感心していた私でしたが、その時私の目に、意外な光景が映りました。用具や装飾等の係の児童たちまでも、「がんばるぞ！オー！」と声を上げていたのです。いかに子どもたちが運動会を楽しみにしているかを感じると同時に、運営する側として協力して運動会を盛り上げようという、4～6年生の気概を頼もしく思う光景でした。



昨今、教育の中で「非認知能力」が注目されています。数値化できない「これからの社会を生き抜くために必要な能力」のことであり、学力向上のカギとも言われています。子どもたちは、運動会を通して、友達のよいところや頑張っているところを見つけたり、集団の中で自分が何をすべきか考え自分の役割を果たしたりし、他者とつながる非認知能力を高めたと言えます。また、自分の頑張りをを見つけたり、負けて悔しい思いを乗り越えたりすることで、自分と向き合う非認知能力を伸ばしたはずです。子どもたちが作り上げた運動会。終わった後の顔は、充実感に満ちていました。これからも、体験を通した学びを大切にしながら、身に付けさせたい力を意識し、子どもたちの育成を図っていきます。

地域の皆様のおたたくいご支援、保護者・PTA の皆様の多大なるご協力をいただき、「笑顔いっぱい ともに輝く小山台」の運動会を開催することができたことに、心より感謝申し上げます。

子どもたちの学校生活の様子については、小山台小学校のホームページに随時掲載しています。ぜひご覧ください。